

ASEAN グローバルプログラム に参加して

山下 莉歩

Riho YAMASHITA

環境ソリューション工学科 2年

1. はじめに

2017年8月29日から9月7日にかけて、ベトナムとシンガポールにて企業・大学訪問や、現地学生・ビジネスパーソンとの交流を始めとした様々な研修を行う ASEAN グローバルプログラムに参加した。具体的な日程を表に示す。以下では、志望動機や、参加目的、研修内容、プログラムに参加して学んだことを記す。

表 研修日程

8月29日(火)	ベトナム入国(ハノイ) オリエンテーション(ホテル)
8月30日(水)	企業訪問(3企業)
8月31日(木)	ハノイ工業大学において
9月1日(金)	現地学生とのPBLおよび発表
9月2日(土)	博物館見学等、自由時間
9月3日(日)	ベトナム出国、シンガポール入国 博物館見学等
9月4日(月)	南洋理工工科大学において キャンパスプログラム
9月5日(火)	トークセッション(2名) ビジネスパーソンとの交流会
9月6日(水)	自由時間(オプションツアー) シンガポール出国
9月7日(木)	帰国

2. 志望動機

私が今回のプログラムに参加しようと思った理由は、三つある。一つ目は、海外の企業には前から興味を持っていたため、海外にある企業の雰囲気や特徴を実際に行くことにより、知りたかったからだ。二つ目は、現地の人との交流は普段の生活では、なかなか体験できるものではないため、自分の今の英語力が海外でどのくらい通用するのか試したいと思ったからである。そして、三つ目は、このプログラ

ムに参加して、自分の進路を決める際の参考にした
いからである。

3. 参加目的

今回の研修では、企業の特徴を知り、将来のことを考えるきっかけにすること、そして、現地の人と積極的にコミュニケーションを取り、母国語以外の言語でのコミュニケーションがどのようなものかを実感するという二つを目的とした。

4. 企業訪問

ベトナムでは、日系企業の Takagi Vietnam、現地企業でスマートフォンアプリの開発や、ウェブシステムの開発を行う Rikkei Soft、およびモバイルアプリや、業務系アプリの開発を行っている NTQ といった現地の企業を訪問した。その中で、私が最も印象に残った企業は Takagi Vietnam で、主に、プラスチック部品の成形や、散水用品の組み立て、金型部分の加工・製作・メンテナンス、セントラル浄水システムの開発・実証を行っている工場である。

まず、工場見学をさせていただいた際に驚いたことは、女性の割合が高いということである。日本の工場勤務といえば、男性が多いイメージがあったが、Takagi Vietnam では、従業員のおよそ8割が女性であった。なぜ女性のほうが多いのかというと、それはベトナムの風潮にあるとの説明があった。ベトナムでは、女性のほうが男性よりも仕事に対しての意欲が高いと言われていたことに加え、盆栽の文化もあり、組み立て作業といった細かい作業が多いこの工場では、女性の割合が高くなるということを知った。

そして、Takagi Vietnam の工場見学や工場の方の説明を聞いて、三つのことに感心を持った。一つ目は、不良品が出回る確率が極めて低いということである。Takagi Vietnam では、全製品の検査を目視で行っているため、工場内の抜き取り検査では0.01%、市場ではそれ以下という結果が出ているとのことであった。二つ目は、工場の二階に従業員の名前

と現段階で従業員が習得している技術が分かるボードがあったことである。そのボードの仕組みとしては、ボードに項目ごとに従業員が何をどこまでできるのかを、パーセント表示で示し、その作業ができるようになれば、収入が増えるというものである。技術を習得することで収入が増えるため、より多くの技術を身につけようと従業員も努力する。結果として従業員一人一人が多くのことができるように成長し、Takagi Vietnam で働く人、全員がベトナム人という目標達成に近づくことができるということろに感心した。そして、三つ目は、福利厚生がしっかりしているということである。魅力的な企業が現れたら、即座に転職してしまう人が多いベトナムでは、福利厚生が重要になってくるそうである。そのため、Takagi Vietnam では、従業員の家族のために何かする、社員で旅行に行くといったことを取り入れている。その甲斐あって、Takagi Vietnam の離職率は低くなっている。特に最初の二つのことは日本ではあまり行われていないことであると、工場の方がおっしゃっていた。確かに、このような方法はベトナムの特色とあっているからこそ、機能しやすいのであって、機械化が進んでいる日本では、目視などは取り入れにくいと思う。この工場見学を通して、同じ Takagi でも日本とベトナムでは方法が異なる部分があり、現地にあった方法を採用することが、その国でその工場が淘汰されないための大切なことであると感じた。

5. PBL

また、企業見学に加えて、ベトナムではハノイ工科大学の学生と共同で、ベトナム若年層の美意識調査を行い、その結果をもとにどのような服が売れるのかを考えて班ごとにプレゼンテーションを行った。私は、今まで英語でアンケートを作ったことも、英語でこのような議論をしたこともなかったので、これは私にとって新しいことへの挑戦ばかりだった。PBL で最も大変なことはアンケートを作ることだった。日本であらかじめアンケート内容を班

で相談しておいたのだが、それが上手くベトナム学生に伝わらなかったり、修正したい箇所の英語での伝え方がひらめかなかつたりと、もどかしい思いをしたが、筆談やジェスチャーを用いて解決し、納得いくプレゼンテーションができたので、あきらめない大切さを改めて学んだ。

6. ビジネスパーソンとの交流

シンガポールでは、築野さん・寺嶋さん・芝崎さん・大野さんとの交流と、加藤さんの講演を聴く機会があった。お話を聞いていて、海外で働くと言うことは日本で働く以上に大変なことではあるが、様々な人種の人が入り、そのような彼らと話すことで多くの刺激を受けることができ、やりがいを感じられるということが分かった。特に、印象的だったのは大野さんが交流の際に話しておられた、シンガポール人と日本人の仕事のやり方の違いについてである。日本人は言われたこと以上の仕事を、相手のために思ってプラスアルファですることもあるが、シンガポールの人は任された仕事しかしないというスタンスのため、本当はそれも加えてしてほしい仕事があるのにと思うことがあると話しておられた。しかし、それは文化や国の違いのため、怒っても仕方が無いので受け入れて折り合いを付けることが大事だとおっしゃっていた。このような生の声を聞く機会があり、貴重な時間を過ごすことが出来た。

7. おわりに

今回のプログラムでは、難題が多かったが、どれも諦めずに最後まで取り組むようにしたため、悔いは残らなかった。また、企業には各々の特徴があり、それが強みになっていることや、英語でのコミュニケーションの難しさを感じる事が出来た。今後の課題としては、主に自分の学科に関する海外の仕事を知ることや、語学力を向上させることが上げられる。

このような貴重な機会を与えてくださったプログラムに関わった皆様にご心より御礼申し上げます。